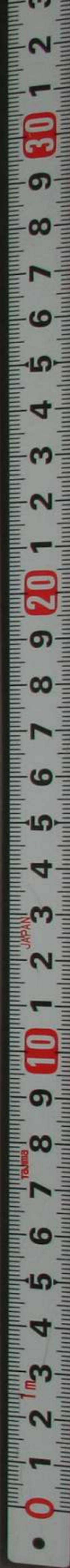


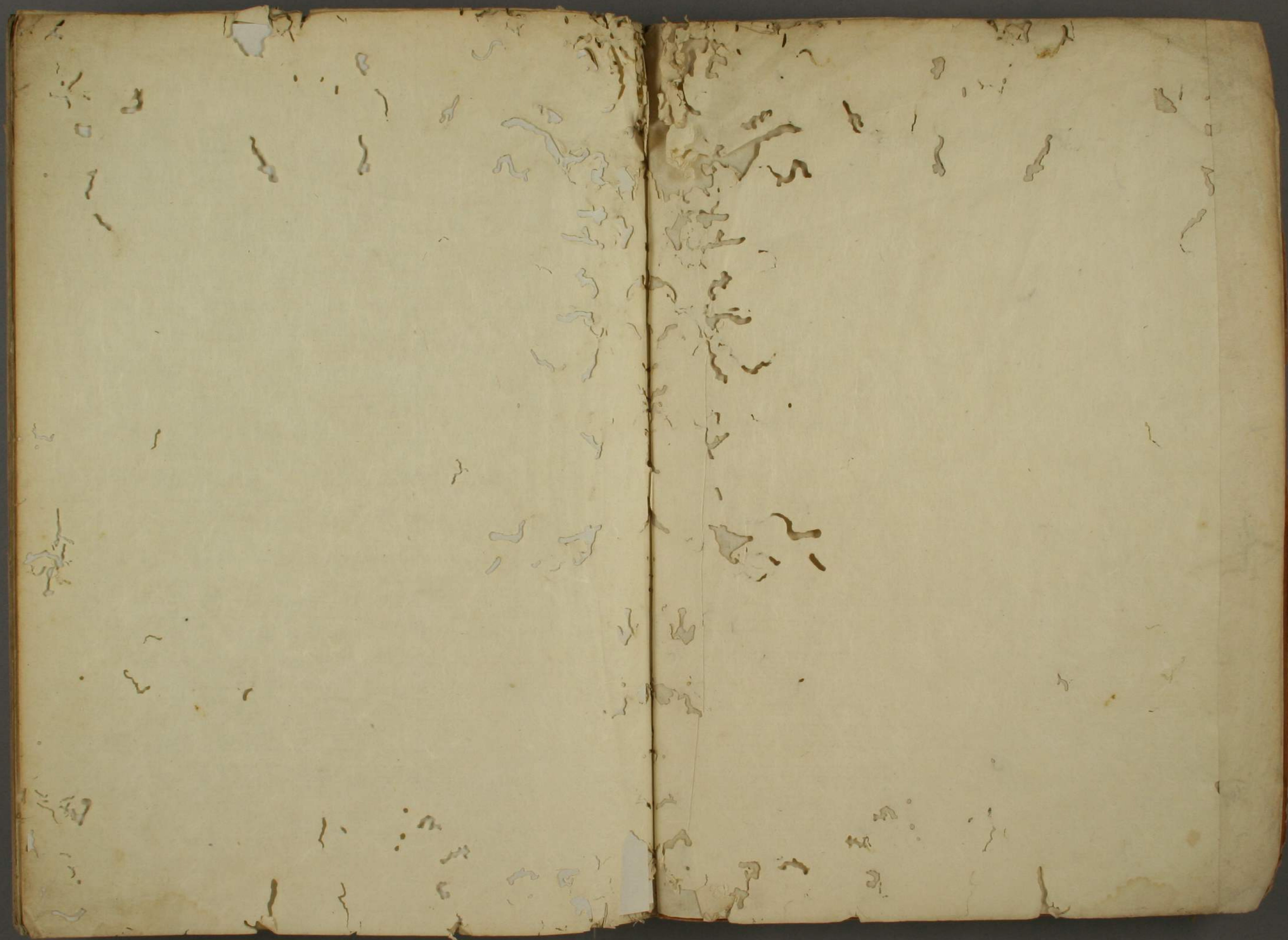


左大将家百首歌合

特別
54
1373
1



左大將家百首歌合



明 利
2268
卷 1-2

八4
1373

方大將家百首雜合

題

秋

殘暑

野分

鴨

九月九日

冬

落葉

野行

衾

乞巧

秋雨

廣澤池畔望

秋霜

殘菊

冬朝

佛名

稻妻

秋夕

暮秋

枯野

寒松

天海藏

鷓鴣

秋田

柞

雲

推柴

青蓮院宮專朝親王

方大將家
百首雜合

秋
天海印

五
十

左勝

蓋宗朝臣



此書をこの世の仏も法人も右成りゆくものなり

右

隆信朝臣

冬よりきよき心ありてにみたりと申すやうな人
 ありてはた今も招難ありて名湯不浪佛若
 降る十二月の舟の舟名湯の佛若也右判らた寺
 を難しむ右方りて右有の方りて右のよ人か
 たりと申し佛名かゝるや但有明の月ありて
 一いなるはくはり郭とていふ野曲野と勅曲とありて
 つききめくそ是のゆゑにたす難きての勝

三十番

右持

右房

一とせりてのまじきまのまゝにせりての佛の鐘のひび

右

信定

唱けりてのまじきまのまゝにせりての佛の鐘のひび
右方より不申難判にせりてのまじきまのまゝに
わんとしひてのせりての佛の鐘のひびにせりての
すゝ網にせりてのまじきまのまゝにせりての
乃清りてのまじきまのまゝにせりての
せりてのまじきまのまゝにせりての
病惠日能消除といつる文にせりてのまじきまのまゝに
はせりてのまじきまのまゝにせりての

一番 粘上

張書

右持

李經卿

かゝる心ひてのまじきまのまゝにせりての佛の鐘のひび

右

經家

秋本ぬと風分りてのまじきまのまゝにせりての
右方より不申難判にせりてのまじきまのまゝに
乃とつてのまじきまのまゝにせりての
るまじきまのまゝにせりての
ら尤ひてのまじきまのまゝにせりての
まじきまのまゝにせりての
小まじきまのまゝにせりての
といつるまじきまのまゝにせりての

たると柳をさるるりてはくよすくゆき
ふきとちりつとちりつと

二番

右

額昭

ふか月つては日影よのこしと別風の秋よき

右 勝

中宮権左兵衛

秋のあまてらひと暮と葉あけの言のわが萩の上風
右方から若くは風乃秋とさうをわとさういふ
かへれあまやから右平上りふ小懸のゆきあ
とさあがり下句何あまをくくと判らた乃
若くは風の秋よきとさあをわとさあをわと
しとあまのすしりつとあまのすしりつとあまの

葉あけの言のわが萩の上風
又残暑をいよわは秋涼と賞
きりもも下り有難きと何言ひつとさう萩
の上風優うりや下り勝

三番

右 持

有家朝臣

秋風乃吹つとぬき若くは萩の上風

右

家隆

秋末ももさしとあまの風を吹つ
右あまの風を吹つとあまの風を吹つ
はあまの風を吹つとあまの風を吹つ
くくとあまの風を吹つとあまの風を吹つ

左膳

定家親名

秋来くも夕風とくつ神は友とわたり新そきち

右

し 深蓮

暮むすもあきやらぬ夕暮、神ぶもくく萩のど風

友ちちよと都那しや判らち平とくわ

夏とじつ秋ありく冬よつらあきも秋

かしの道秋よりり夏も秋あきく秋

やまの侍人たろ杉のくさつらつらや

六番

左持

女房

うらふら浪より秋の三回くくしとれぬ柳陰

右

信定

秋あきき日影よま、秋まきもくく難い萩の上風

ちちちらた匠もあちちら秋あき未ゆみく

言難しん冬とや判らた冬浪より

秋のわといつらいつらくくく柳陰ふ

うらくく秋田川を秋あきたつらくく

くまらうらうらくくくくく柳陰を

申右しんくゆきくくくくくやゆらん

右平くくくく二番らちちあゆつる平の月

ゆきゆきも秋あき未ゆみくくく

ゆきゆきくくくくくくくくく

首尾おけ那くくくくくくく

くくくくくくくくくくく

七番 乞巧賞

右縁

季経心

富くふ新くうつ花七夕わきいさあ一たう川流

右

経家心

非りんかろあ七夕とつうついおんはあふこころん

右から左へ云賞ら又あお解い志くくしん

えとあやう右と海とふ賞らまきしん

ゆりや判ら七夕乃平を真風を奉ふてん

とくし躬恒あわらえん子そとくうくくく

と左へ又あきなはさくくしんああわら

あさくく又あきなはさくくしんああわら

あさくく又あきなはさくくしんああわら

八番

右 勝

道宗親信

くし竹よとくは秋風と新あひくうつ花も星命の光

右

中宮権左大臣

九重いりあつる七夕乃平を真風を奉ふてん

右方りらとつうつ花も星命の光ああわら

右方りらとつうつ花も星命の光ああわら

一物といえんる判ら賞福もや星命の光あ

あさくく又あきなはさくくしんああわら

あさくく又あきなはさくくしんああわら

九番

友

李維心

ふりつる月夜夜のまに月夜夜のまに

右 勝

中宮様さま

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜のまに

友 右 勝 判らぬ首のまに月夜夜のまに

月夜夜とらむる夕月夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

十七番

友 勝

女 扇

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

右

常 蓮

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

夕月夜ひらりあふのまに月夜夜ひらりあふのまに

繁園 黙

とくうの道に於たりて松の露のつらりと

十一番

友 晴

有家朝臣

風やうの波来うとく落すふをうもとての春の稲妻

友

家隆

ちうしほは風は好くは落すふをうもとてその稲妻の

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

十一番 終

友 晴

頭取

カ縁

春のうたはさかすかすなれど 鶴のつらみの糸はくま

友

家隆

秋のうたはさかすかすなれど 鶴のつらみの糸はくま

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴 友 晴

秋のうたはさかすかすなれど 鶴のつらみの糸はくま

廿番

左勝

萬宗朝臣

とやあはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

右

陸家

秋風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

廿一番

左勝

李維

夕風の夕風よんをたれと鶉のくわり

右

陸信朝臣

風の夕風よんをたれと鶉のくわり

あはれらる秋の夕風よんをたれと鶉のくわり

病も判らぬ時よふとて丸ちりや
かといつては不承度まゝや右志はつとい
つる相ありしよゆきと不見痛とまじり
丁卯丸園の勝よ

廿二番

左

有家朝臣

夕ぐれぬ後りもさし整ふる芳の難し

右

信定

ろく極し花の難のむすのゆとの整つたを
右の言の芳不害もや左の花の難い
いささの極しや判らぬ右の難ある首の難
さ不害花とさいさむとさくいさく霧の

難あるもや花の芳又練不練よ不及事
但たさうぬさくさくさくさくさくさく
乃中のわく後花さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく

廿三番

左

女房

獨らわらぬ丸のり病よ床とかくし
右

右

中宮権女史

秋風よあのかたむの夕露や鶴の園のあ
右の言の芳不害もや左の花の難い
乃中のわく後花さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく

こゝろをいふもよしとらふれりたふ下不相知か
うう下勝りや

廿六番

友

萬葉朝臣

百葉乃屯しりあふたふくちあひさけおろし朝の登り

右勝

中宮権ちち

明く野らる風のあはれむとさきさきおれた花の多
友ちち勝りやあやと判らたあ子勝りやあ
き様と唐末さくらやちちたふらととあ
源氏乃登りたむうつととあ出らむと
此の海よとゆらや但た乃屯しりあ
いしち乃やとあはれむとあ朝臣のま

廿七番

友

孝經

見ゆらとねたりのくまはれしとそらとせむらや
明くふはれらる友の由とあつらやゆら

初めゆく朝の登りいひりまらとらふらと

右勝

常蓮

思や致らととくまはれしとそらとせむらや
右しらすと竹垣りや友やと登りまららる
判ら友介様あやとと野らとあはれ登り
まらら花まらとととと下極とすはら竹
垣の損失とあ存がらとあやちちの登りまら
と不丁及部まらととととととととと

心ちのほろろ——ちろろおとせむのうらみ
くち勝のゆるり

廿八番

左 嫁

定家朝臣

秋の葉よこころの風の秋のよきやうく野に花散るるを
か

右

信定

かひきりおむるまは治りてまらぬ聲をいつくさ
たの秋のよきちのほろろよまゆあまきと申
判らたちの近代を今ふ不ひんをやを
下ぬえはたちかこりし風の秋のよき
ゆるちの平にゆるりしは隆也下唐きあひ
きりしよきまこりしは隆也下唐きあひ

と有金情よやくんとくえのゆとか佐たのと
下朝臣ゆるりや下つゆえ

廿九番

左 女

女房

あつとくさうくさうくさうくさうくさうく
あつとくさうくさうくさうくさうくさうく

右

家隆

かふあも唐とてそわひまおれ野にいそらるるの
あちよ有威氣判らたちをうのうまのまの
うまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あちよ有威氣判らたちをうのうまのまの
あちよ有威氣判らたちをうのうまのまの
あちよ有威氣判らたちをうのうまのまの

友

定家親臣

仍集をき秋のよのそとをわらじしゆたのひの

右勝

信定

日ふらと秋のよのそとをわらじしゆたのひの
右勝友平一とのそとをわらじしゆたのひの
や友平一とのそとをわらじしゆたのひの
日又難ら秋のよのそとをわらじしゆたのひの
りともとのそとをわらじしゆたのひの
を各方ののそとをわらじしゆたのひの
志のそとをわらじしゆたのひの
をきととのそとをわらじしゆたのひの
しゆたのひのそとをわらじしゆたのひの

三番

友勝

有家親臣

秋のよのそとをわらじしゆたのひの

右

中宮権大左

今もよのそとをわらじしゆたのひの
友平一とのそとをわらじしゆたのひの
風神をよのそとをわらじしゆたのひの
友平一とのそとをわらじしゆたのひの

四番

友

道宗親臣

仍集をき秋のよのそとをわらじしゆたのひの

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

右勝

家隆

新ち記の風ふちる由は定むる由さふりて秋のしる

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

五番

友勝

女房

降く〜と小萩のもは庭の由と秋の萩のうらやま

右

隆信朝臣

萩の葉の秋風来りてさひとさあつじ〜由の

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

あつたふりてあふれ秋の葉の定むる由さふりて

六番

友持

頭取

小菊の枝より一は世とわづらひにそらる神をうかひよ

右

寒蓮

小菊咲かしては泣きひくく〜のなきとらひひらひらぬの
友持ま不難中判らぬ方風神各傳よいそ
ゆらふらうと友持は古風と名らると申
らぬ字まの初やうくゆらんわあよひや
中ゆらふらうとむ名とらうよひ〜ぬあやと
ひひ〜とら傳あり〜但友も民の神と
いつらぬ伝はせよと〜と下わわ

七番

秋夕

友 務

道宗朝臣

秋夕の夜音の難く麻の言も花も露もささけり

右

經家

秋夕の夜音の難く麻の言も花も露もささけり
友持ま不難中判らぬ方風神各傳よいそ
ゆらふらうと友持は古風と名らると申
らぬ字まの初やうくゆらんわあよひや
中ゆらふらうとむ名とらうよひ〜ぬあやと
ひひ〜とら傳あり〜但友も民の神と
いつらぬ伝はせよと〜と下わわ
わらわは麻の言も人の言も〜と又種と
わらわ〜入あひ〜と判らぬ中〜夕
〜と〜いふそ空を〜とむもあはれ字をん
こかりて〜とゆら〜と句あり〜と傳なり
友持入あひ〜とす〜と種と〜とす〜と種
〜と〜と〜と傳は伝人伝す〜とあつ〜と伝
傳と〜と〜

八番

左勝

吉徳心

しあきふし子のむらさき後とさくらねむりはるかな

右

隆信朝臣

野のふらふらうすくみ寂しうりさけとふゆり夕暮れ

右方やらたす秋の夕とさくらんこころしき

しとじひのこころはふらりた方やらたす

うすくみとあふのひらまの秋の夕の景色

もつろきわ判らたきき夕音よとつり

あはれも雲り午のころ右方うすくみ

こころわらうす法とさくらもこころたわ

九番

左持

頼昭

秋とつらゆくとし物あうりさけ夕風とあきらまのま

右

中宮権太夫

物とつらあはれとつらとつらとつらとつらとつら

右方やらたす秋の夕とさくらんこころしき

あはれも雲り午のころ右方うすくみ

こころわらうす法とさくらもこころたわ

あはれも雲り午のころ右方うすくみ

こころわらうす法とさくらもこころたわ

あはれも雲り午のころ右方うすくみ

こころわらうす法とさくらもこころたわ

あはれも雲り午のころ右方うすくみ

こころわらうす法とさくらもこころたわ

ふるわらう家やさ袖ふくくともおらわらうあは
つきて秋の夕ぐれとつる傍茶子よひさし
ゆき三井くくつてさしとらふちるわやゆし
何すわや

十二番

友 縁

定家朝臣

秋もくもあまもくもくも秋まほいさうつとの夕とあつ

右

藤原

たうあはらうの萩乃とくも道松風よわう夕暮のそ
たあまを難ゆり判らばたあもらとんり
あはくちんゆりと右の午刺人の萩の暮
まつてんねし松風うとまやゆつてんいさう

いあつらそとまきの中番のつひもや雲の暮
あう庭の浅草生とゆつとらとまやと
わきゆき左御信あうまやゆし

十三番

結田

友 持

有家朝臣

山園わらすくうあうこに風まきくまあじ眠とあう

右

定家朝臣

あうあたらうあ若もそと風あうらう山園成る
右方やま那あたかり右午袖あ文字よ
と判らた午をあじゆつとらつとらと
まあやすすを解まのゆらうま右方
とあうら袖あいらとあうとあうとあう

くまんとすこゝ暇とさうくくや可也 かこ可也

十四番

左

季経

わんわんたる田舎の暮れはなほ秋の暮れに似たり

右

中宮様

いづくも秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

左

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

右

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

十五番

左

頭胎

とらふらるる店にひらき暮れはなほ秋の暮れに似たり

右

常蓮

風はくも田舎にひらき暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

あつらふ秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

十六番

左

道宗親

秋田より来たる秋の暮れはなほ秋の暮れに似たり

世に

とも積るやとつる風、うそくゆとをそよめ
とあふふあそひしまくといつる竹韻とたの音よ
とつるふと雅し竹物とす

廿九番

右持

頭取

いづさよの池へいづる月影を都よりとくむ水成る

右

帝蓮

月影を都よりとくむ水成る
たあたるよ月影を都よりとくむ水成る
とも都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る

三十番

右持

女房

いづさよの池へいづる月影を都よりとくむ水成る

右

家隆

いづさよの池へいづる月影を都よりとくむ水成る
たあたるよ月影を都よりとくむ水成る
とも都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る
月影を都よりとくむ水成る

一番

右持

有家朝臣

いづさよの池へいづる月影を都よりとくむ水成る

右

家隆

いづさよの池へいづる月影を都よりとくむ水成る

あつては萬一の朝に何となくさうな
た右もふま指難^中判^たあ首^たはは
はあ朝の何となくとたあはる屋と
右もさうな朝と結よまの何となく
勝方か一月おとすくや

六番

左 勝

女房

うはらひさし首あともあはる萬の指難い結風

右

床草

あつては萬一の朝に何となくさうな
月前判^た右もふま指難^中判^たあ首^たはは
右もさうな朝と結よまの何となく

あつては萬一の朝に何となくさうな
つのはらひさし首あともあはる萬の指難い結風
右もさうな朝と結よまの何となく

七番 柵

左 勝

道宗朝臣

あつては萬一の朝に何となくさうな
柵の柵は結難いねは

右

理家

あつては萬一の朝に何となくさうな
柵の柵は結難いねは
月前判^た右もふま指難^中判^たあ首^たはは
右もさうな朝と結よまの何となく

八番

右 勝

定家朝臣

可むらぬ浪をふいつく川根の村ありて

右

家隆

秋さきいそよの柳糸り葉をさき流るるを

たぢきく母指部中より判らぬ浪をふいつく

まといつすこころ傳つらうて終句ありてや

とるよ結よ不相意ゆくとちり葉を草下り家

やそむいんとといつとくふよ様は自由むじろま

とあつてり葉をさうりその家やあつて

あるたのありて吹くく物下り勝や

十三番 九月九日

右 抄

類聚

ふまつるまきあろもうのそら菊はありのくまをと白糸の袖

右

中宮控たま

かろいりあつたるといひわたりたえとくつ白菊の屯

右方よりあつてきて甚依り審方深し兼和菊

兼和菊好貴ふ仍菊菊とらかり右重なり

可葉集よりうひといつとるさといふらんたりと

さしてあつるといひすといひの開く菊とら

たよりちちんをわたり判らぬまきけり

まといひあつとらりてあつとらりて

あつとらりてあつとらりて

あつとらりてあつとらりて

あつとらりてあつとらりて

さつりつそくく秋やむらさき入望のそ奈よ志を
志方やうきあふまら秋のれつとくしもあ
たはらたむらさき秋の書あふ年うた方
やうきあふまら秋の書あふ年うた方
けりつとく判らるる一匡く丁の

廿六番

右勝

香經心

つねらとくあふまら秋のれつとくしもあ
たはらたむらさき秋の書あふ年うた方
やうきあふまら秋の書あふ年うた方

右

隆信朝臣

あふまら秋のれつとくしもあ
たはらたむらさき秋の書あふ年うた方
やうきあふまら秋の書あふ年うた方

秋仍又心だの勝

廿七番

右持

顕昭

あふまら秋のれつとくしもあ
たはらたむらさき秋の書あふ年うた方
やうきあふまら秋の書あふ年うた方

右

中宮権太夫

あふまら秋のれつとくしもあ
たはらたむらさき秋の書あふ年うた方
やうきあふまら秋の書あふ年うた方

廿八番

右勝

道宗朝臣

長月の古めりるをよそくせらそ秋の志だてたるを

右

家隆

くねの秋しうをんそくしうあひまひしう月の新しうり
月前判らたはまめりるをよそくせらそとくしう
く月の新しう一しうしうしうしうしうしうしう
極しゆきとちうしうしうしうしうしうしうしう
はしゆりしゆりあめ勝と申す一

廿九番

右

定家朝臣

ちるるるるる秋の月新しうしうしうしうしうしうしう

右勝

常世

言し秋のころもいふは月とあやもいふはうら

右方りしまめりるをよそくせらそ秋の志だてたるを
下難し中判らたす下はけり秋の志だてたるを
下難し中判らたす下はけり秋の志だてたるを
下難し中判らたす下はけり秋の志だてたるを

三十番

右

女房

魏田娘いしこのはら秋風ふきれしうしうしうしう

右

信定

あししちうちうちうしうしうしうしうしうしうしう
ちうちうちうちうしうしうしうしうしうしうしう
判らあ首あしし秋と惜し切ら
ア一而た方人をしうしうしうしうしうしうしう

海色傳よこうゆり建ちたる林の交はるるや
こゝろふしむしおのりるらんわらわらわらわら
くゆりよた又らるるはくくくくくくはあま
つらくわとて

十九番 雨雲

左勝

女房

新續古
風さしこころをわらわら雲のくくくくくく

右

陸信朝臣

わらわら本意のくくくくくくくくくくくく
たぢたる不難や判らたすくくくくくくくく
こころとくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

たすくくくくくくくくくくくくくくくく
庭来しゆらるるくくくくくくくくくくくく
つらやんくくくくくくくくくくくくくくく
あひくくくくくくくくくくくくくくくく

廿番

左

孝經卿

惟もよられをくくくくくくくくくくくく

右勝

信定

風はくくくくくくくくくくくくくくくく
あひくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

しきひのゆゑにわづらひしあやまき一也しつるに可
何れもさういふをわづらひしあやまきとてそのあやま
しきも物とてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて

廿一番

右

有家の臣

人自にうぢれしとてあやまき一也しつるに可

右

家隆

かよひ思ふ人そねらるるやわづらひしあやまきとてそのあやま
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて

廿二番

右

定家親臣

しきひのゆゑにわづらひしあやまき一也しつるに可
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて

右

中宮権大左

あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて
あやまきとてつらうとてわづらひしあやまきとて

しよと結ぶ紐底米のゆるしを縫うやうに
拂ひつらうと下の中を縫い傳へるやうに
やうに縫うと右縁とす

廿三番

右縁

道宗親臣

はらうかきつる帯もみそれぬくまうち伝わらぬ

右

宗蓮

かきつらうおしり^あり帯もみそれぬくまうち伝わらぬ
川お判らた手ははらうとてつる帯もみそれぬ
しよと結ぶ紐底米のゆるしを縫うやうに
やうに縫うと右縁とす

廿四番

右持

顕昭

あつとつらうと下みそれぬき紐もゆるしたるや
しよと結ぶ紐底米のゆるしを縫うやうに

うはらうかきつる帯もみそれぬくまうち伝わらぬ

右

経家

あつとつらうと下みそれぬき紐もゆるしたるや
右^からた手^か指難^かた^から^かた手^かめ^から^か
判らた袖^かり^かの^かあ^かた^から^かひ^かき^かつ^から^か
て^から^かひ^かき^かつ^から^かひ^かき^かつ^から^かひ^かき^かつ^から^か
伊勢物語^かの^かふ^かう^かつ^から^かひ^かき^かつ^から^か
あつとつらうと下みそれぬき紐もゆるしたるや

とある人の^のかりんしと世に降めぬ多々の花は^は世を
たなをふを難^り判らざる道とつら
るるそとつら^いのつら^い思^ひを^はね^てお
く^はつら^いつら^いと^まる^や時^もめ^くゆ^らん^る道
の小野^はあら^ある^は世^はあら^まる^の人^の
とつら^い又^もあ^の津^のき^をつら^いつら^い事^は若
かり^は極^やつら^い時^も若^くあ^るか^らも^や
廿九番

友持

香經つ

いふ^はつら^いあ^るき^とう^らみ^らる^れあ^の芥^の河^のの^は海
つら^いの^はあ^るれ^統く^ある^きと^うつ^らい^は海
右 席道

た^らし^らた^らの^は指^難た^らら^らむ^らむ^らと^らん
る^は又^も水^の何^れ要^らず^判ら^るあ^る者^は右^のあ^るき^とう
ら^らと^つら^いあ^る者^らら^らみ^ある^はと^うつ^らい^は
つ^らい^は俵^たら^しと^たら^しを^らり^川の^は字^はい^うあ^る
は^の右^の水^はと^ふ俄^らり^んつ^らい^は又^もつ^らい^は難^し
三才番

友縁

女房

芥^の河^の浪^もじ^うと^らむ^らあ^るき^とう^つら^いは^海
右 隆信親臣

津^の幸^もあ^るの^はあ^るき^とう^つら^いは^海
た^らし^ら不^難判^らる^は右^のあ^るき^とう^つら^いは^海
い^いと^うの^はあ^るき^とう^つら^いは^海

十六番

右勝

道宗朝臣

及て我々の如く推挙するに... →

右

隆信朝臣

位は道の志井とて年より... 隆信
 右は平懐の... 隆信
 連懐とて... 隆信

十七番

右持

季経朝臣

右はつりつら... 季経

右

信定

推挙するに... 信定

右は... 信定

判らるる... 信定

合ふ... 信定

上... 信定

優よ... 信定

十八番

右

定家朝臣

推挙するに... 定家

右勝

中宮権大夫

今... 中宮権大夫



